# 年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：2022 年　4 月 15 日
● 事　業　名　：地域巻き込み型共生社会の実現
● 資金分配団体　：公益財団法人長野県みらい基金
● 実 行 団 体　：特定非営利活動法人 Gland・Riche
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　□無

① 実績値

【資金支援】

| アウトプット | 指標 | 目標値 | 達成時期 | 現在の指標の達成状況 | 進捗状況＊ |
|---|---|---|---|---|---|
| ひきこもりや不登校、孤立した高齢者がより気軽に社会参加できる場所に生まれ変わる。 | ① 交通の便、利用しやすい居場所環境（定性・聞き取り調査）<br>② 利用者満足度（定性･聞き取り調査） | 初期値からの向上　場所は２か所のまま、トイレや暖房等の設備を整え、より自由に行きやすい場とする。利用者日々１０名以上。平日の毎日自由来訪型。 | 2021 年 3 月 | 安曇野市近隣の引きこもり状態からの参加者は 4 人一回のみの参加者６人<br>アンケート未実施<br>就労場所が 3 か所に増えた。ほかにもてつだってほしいという農家が数件ある。 | 2 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 参加者の中から福祉就労につながった方3名 | |
| 個々のニーズを把握し、就労の場への繋ぎや、居場所での居心地の良いサービスを提供できる。必要に応じて他機関に繋げることができるようになる。 | ①相談・対応件数（定量・件数）<br>②相談・対応内容（定性・聞き取り調査）<br>② 繋ぎ場所（定量・推移）<br>③ 繋いだ後の状況（定性・聞き取り調査） | 農業と貧困家庭、ひきこもり、高齢者、障がい者等の連携の仕方のシステム化 | 2021年3月 | 農作業を通し作業の連携が図れるようになった。家庭に問題のある子どもは市町村の家庭支援課福祉課、と連携が持て、社会福祉協議会の日常生活支援事業や市、県の生活保護申請につなぐことができた。 | 2 |
| 対象者へのアクセスとしてアウトリーチを更に多く行うことができるようになる。 | ①アウトリーチ件数（定量・実数把握）<br>②対象者が居場所につながった件数（定量・実数） | アウトリーチによる担当件数現在約80名<br>中信地区の推定引きこもり者数6000人 | 2021年3月 | 新規対応は数が多すぎて対応できていない。参加してくれている人を大事に支援していく。 | 2 |
| アウトリーチ行うことができる技術職がふえ引きこもり状態の人の減少につながる。 | ①講習会の開催回数と支援者の数（定量・講演会と支援者の実数）<br>②各支援者が持っている支援者数（定量） | 要支援者は多いがどう支援してよいかわからないという支援者に対する支援 | 2021年3月 | 3回ほど開催したのち、再びコロナウイルスが流行し止まっている。新規職員を採用し個別に引継を行っている。 | 2 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 安心安全に過ごせる場所で作業内容と作業工程を明確にする、個性や特性に合った就労システムが生まれる。 | ① 対象者のニーズ（定性・聞き取り調査）<br>②対象者に合った作業とのマッチング数(定量)<br>③モニタリングの回数(定量) | 新たなアセスメントとマッチング支援体制づくり | 2021 年 3 月 | 活動主体が農業なので、活動に沿った参加者が主体になっている。アセスメントで農業以外の要望があっても対応できないでいる。<br>農業に関しては、時間、日数等柔軟に対応できている。 | 2 |
| 地域の産業に携わることで雇用の機会、新たな地域の担い手を創出し、事業（農業連携）の継続力をつける。 | ①雇用需要数(定量・雇用数 )<br>②事業継続力・増加量(定量・実数) | 作業工程別従事者の把握→見直し→向上（繰り返し）のシステム化を行う。就労者日々5 名以上 | 2021 年 3 月 | 協力農家と連携し日々の作業が計画的にできている。事業も拡大していっている。<br>主事業であるワサビはコロナ渦で飲食店への売り上げが激減した。<br>陸ワサビはようやくハウスが完成し栽培が始まった。管理に追われている。 | 2 |
| 就労に携わる対象者が、自信と誇りを持って地元産業を守り育 | ①対象者の意識変化（定性・聞き取り） | 安曇野市、安曇野市周辺地域住民の参加協力者が増える。 | 2021 年 3 月 | 作業を通して地域の農家や他従業員、ボラン | 2 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| てていく機会が生まれる。 | | | | ティアとかかわることにより、社会性を持つことができ、自分の生きている場所を確認していくことができるようになった。 | |
| 地域全体で一つの新しい生薬栽培プロジェクトが生まれる。 | ①実施農地個所数（定量・実数）<br>②試験栽培参加農家数（実数把握）<br>③関わる生活困窮者、ひきこもり、高齢者、障がい者人数（定量・実数） | 試験栽培地５カ所、携わる困窮者ひきこもり、高齢者、障がい者等１か所につき２名以上 | 2021 年 3 月 | 3 月時点で苗の購入資金が足りず翌年に持ち越し<br>継続中のシャクヤクは順調<br>当面はシャクヤクの株分けをしながら耕作免訴気を広げていきたい。<br>当帰の種をまいたが手が回っていない。 | 3 |
| 地域に新たな生薬栽培プロジェクトが生まれたことで、荒廃地が減る。 | 荒廃地の減少面積（定量） | 安曇野市、安曇野市周辺地域住民の参加協力者が増える。 | 2021 年 3 月 | 行政から何人か農地委員を紹介してもらったが、あまり乗り気ではなくとん挫中 | 3 |
| 生薬の花を見たり花をかざる等で、新たな観光が生まれる。 | ①観光客数の推移（定量・実数） | 芍薬の咲くころに花摘み体験等のイベントの実施が定着する。芍薬 | 2021 年 3 月 | コロナにより観光客はほとんどいない。 | 3 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ②観光客の感想（定性・アンケート） | の花を小中学校へプレゼントするなど。 | | 地元住民には花を楽しんでもらえた。 | |
| 地域全体の事業という意識付けと、関わる障害者、ひきこもり、生活困窮者、高齢者等の存在や課題解決を、自分事に思って貰う機会（場所）が生まれる。 | ①関係者の意識変化（定性・アンケート）<br>②他県や他の地域、地元住民を対象とした見学会の回数（定量・実数） | 見学者の随時受け入れ | 2021 年 3 月 | 農業は農繁期になると作業に追われ付随する事業ができないでいる。農閑期は、見学希望はない。 | 3 |
| 行政広報やメディアの協力、事業の取り組みを広く周知したことで、地域の事業だとの意識付けが生まれる。 | 地域住民の意識変化（定性・聞き取り調査） | 地域の事業という住民意識の定着 | 2021 年 3 月 | 生薬栽培の規模が小さく注目度はない。 | 3 |

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

| |
|---|
| 1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み |
| 2.概ね達成の見込み |
| 2.アウトカムの状況 |
| A：変更項目<br>☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値<br>計画より遅れている。 |
| |

| 3. 活動に関する報告 |
| --- |
| 目標を２としていた就労場所が３か所に増え、安曇野市近隣の引きこもり状態からの参加者は 11 人、１回のみの参加者２人となり、目標人数は達成出来た。農家の依頼もあり、さらに就労場所が増える可能性がある。農作業での成果は、作業の連携が図れるようになれたこと。また、家庭に問題のある子どもは市町村の家庭支援課福祉課と連携が持て、社会福祉協議会の日常生活支援事業や市、県の生活保護申請につなぐことができた。引きこもりなど対象者へのアクセスは、昨年 10 月まで 150 人となり、それ以降業開始から延べ 180 名で昨年 10 月から 30 名増えたが、アクセス後のケアが疎かにならないようあまりアクセス数は増やさなかった。今後は、参加してくれている人を大事に支援していく。<br>地域の産業である農業連携では、協力農家と連携し日々の作業が計画的にでき事業も拡大していっている。主事業であるワサビは、ビニールハウスが完成し陸ワサビの栽培が始まった。ここでは、過去引きこもりだった２人が責任者的な任務を担い働いていている。ハウス完成が遅かったこと、初期管理の失敗や管理スケジュールの不慣れにより収穫量は当初予想していた 60%くらいになる可能性がある。来年に向けて反省点を踏まえ準備をしていきたい。陸わさび栽培は、予想以上に人手と費用がかかり対応に苦慮しており、今後水の中のわさびと生薬栽培、他農業との人材や資材の割り振りが難しいという課題がある。作業を通して地域の農家や他従業員、ボランティアとかかわることにより、社会性を持つことができ、自分の生きている場所を確認していくことができるようになったことは成果だった。また、「農業っていいな」と思う人が生まれつつある。テレビや新聞の取材を受け、広報活動は充実している。<br>生薬栽培プロジェクトは、昨年３月時点で苗の購入資金が足りず翌年度に持ち越しとなったが、継続中のシャクヤクは順調。当面はシャクヤクの株分けをしながら耕作免訴気を広げていきたい。生薬栽培の規模が小さいことや、コロナにより観光客はほとんどいないが、地元住民には花を楽しんでもらえた。<br>休眠事業を行ったことで、行政から Gland・Riche に事業を依頼されるようになった。 |
| 6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点 |
| ３蜜を避け一度に作業する人員も減らした |

**③広報に関する報告**

| 1.　シンボルマークの使用状況 |
|---|
| ☐自団体のウェブサイトで表示している　☑広報制作物に表示している<br>☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他<br>→「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）： |
| 2.　広報 |
| 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）<br>日本農業新聞<br>2.広報制作物等<br><br>3.報告書等<br><br>4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） |

**④規程類の整備に関する報告**

| 1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 |
|---|
| ☐完了　☑整備中 |
| 2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。 |
| ☑全て公開した　☐一部未公開　☐未公開<br>→「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日： |
| 3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 |

| |
|---|
| □はい　　□いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

| |
|---|
| 1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。 |
| ☑はい　　□いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 2.　内部通報制度は整備されていますか。 |
| ☑はい　　□いいえ<br>→「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　□外部に窓口を設置　　□ JANPIA の窓口を利用 |
| 3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 |
| ☑はい　　□いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか |
| ☑はい　　□いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。 |
| ☑はい　　□いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む） |

☐内部監査を実施　☑外部監査を実施　☐実施する予定がない
→「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

**添付資料**

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金を活用した事業です